

MUSEUM

2004Summer

EYES

ミュージアム・アイズ

Vol.

37

Mm

MEIJI UNIVERSITY
MUSEUM

● 特集

国際学術会議

SUYANGGAE and Her Neighbours 開催!!



収蔵室から 松川だるま(宮城県仙台市)
博物館スタッフのご紹介
ミュージアム・ショップへ行ってみよう!
来た・見た・聞いた 明治大学博物館
博物館友の会から

韓国スヤング遺跡出土剥片尖頭器

剥片尖頭器は韓国後期旧石器時代を代表する狩猟具(槍先)と考えられています。日本列島では九州地方で発達し、朝鮮半島との当時の交流を物語る資料として注目されています。(写真:韓国忠北大学校博物館提供)

明治大学博物館

国際学術会議 SUYANGGAE and Her Neighbours 開催!!

明治大学博物館では、リニューアル・オープン記念特別展「韓国スヤング遺跡と日本の旧石器時代—SUYANGGAE and Her Neighbours—」の関連事業として、5月15日(土)・16日(日)の2日間、明治大学リバティ・タワー内のリバティ・ホールで、国際学術会議「SUYANGGAE and Her Neighbours」(スヤングとその隣人たち)を開催しました。博物館としては、1997年に開催した「ヨーロッパ拷問展」以来の国際的なイベントとなりました。今回の特集では、その様子をお届けします。

国際学術会議 ‘SUYANGGAE and Her Neighbours’ (スヤングとその隣人たち)とは

国際学術会議‘SUYANGGAE and Her Neighbours’(スヤングとその隣人たち)は、1996年以降8回にわたり韓国国立忠北大学校博物館が主催してきた学術会議です。スヤング遺跡は韓国の旧石器時代を代表する遺跡の一つで、その石器資料が特別展として展示された明治大学博物館が、世界各地の研究者による旧石器時代研究の交流の場となりました。紙上を含めた海外からの発表者7名、国内の発表者6名により、旧石器時代遺跡の調査研究の最新成果や、スヤング遺跡の地質および剥片尖頭器に関する最新の研究、東アジアのなかの韓国と日本の旧石器時代に焦点をあてた研究報告が行われ、活発な議論が交わされました。

海外からの研究者が多数参加

海外からの研究者は、スヤング遺跡がある韓国からの3名を筆頭に、ポーランド、タンザニアからも訪れました。紙上発表者のアメリカ、ロシアも加えると実に世界5カ国にわたります。スヤング遺跡を実際に発掘した李隆助氏は、スライド等を用いながら、スヤング遺跡の概要と出土石器の特徴などについて述べ、またタンザニアのフェデリス・T・マサオ氏(写真2)は東部・南部アフリカの中期旧石器時代における石器時代の様相と、その担い手であった人々の象徴的な行動様式について研究報告を行いました。じかに発表を聞く機会が少ない海外の調査事例や研究発表だけに、参加者のみなさんも熱心に耳を傾けていました。



▲写真1 国際会議発表者とスタッフによる記念写真



▲写真2 コメントするマサオ氏

なお、海外の研究者の発表は外国語でなされましたが、旧石器研究の専門家による通訳が行なわれ、日本人の参加者にもわかりやすく伝えられました。

日韓共同研究 韓国全谷里遺跡の調査



▶写真4 発表する橘昌信氏
(別府大学)



東アジアにおける日本列島の位置づけ

一方、日本人研究者は、6名が発表を行ないました。そのうち、安蒜政雄氏は、日本列島における後期旧石器時代の地域性と朝鮮半島との関係について述べ、松藤和人氏(写真3)は、韓国全谷里遺跡の地質調査成果について取り上げたほか、橘昌信氏(写真4)は、特別展で観察したスヤング遺跡の遺物についても触れながら、ナイフ形石器文化の登場について研究発表を行なうなど、東アジア全体を視野に日韓の旧石器時代が議論されました。なお、会期中は、韓国からの参加者が多かったため、日本語による研究発表は、韓国語に通訳されました。



▲写真5 発表に聞き入る参加者たち

◀写真3 松藤和人氏(同志社大学)による研究発表

◀写真6 交流を深めた
ウェルカム・パーティー



博物館と国際交流

また、国際学術会議開催中は、特別展及び常設展示室の開館延長を行い、多くの参加者が訪れました(写真7)。また、15日夜のウェルカム・パーティーでは、国や大学といった垣根を越えた交流が行なわれました(写真6)。将来の国際学術会議について、また旧石器時代研究の意義、またアジアを含めた国際的な研究への視座など、様々な問題についてそれぞれが意識を深めた有意義な場となりました。今回の国際学術会議は、旧石器時代研究の進展もさることながら、各国の多くの研究者が一堂に会し、交流を深められた点に大きな意義があり、発表者や参加者からもそのような声が多くありました。学問的な交流の場としての博物館の価値を発揮できたといえるでしょう。(忽那敬三)



▲写真7 学術会議開催中のガイドツアー

松川だるま

(宮城県仙台市)



真っ赤で丸くて、どこことなくユーモラスな姿でお馴染みのだるま。これは、禅宗の開祖・達磨大師を模して作られた人形で、大師が9年間もの間、壁に向かったまま座禅をしてついに悟りを開いた、というエピソードからこのような丸い姿になりました。開運の縁起物として、選挙の当選など願い事が成就した時に墨でだるまの黒目を入れる習慣は有名ですね。全国各地で様々なだるまが作られています。今回は宮城県仙台市の松川だるまをご紹介します。



▲見事なえびす様の飾り模様

「松川」の名前は、江戸時代の天保年間(1830~1844)に仙台藩士・松川豊之進が創始したことから付けられたと言われています。もともと下級武士の手内職としてつくられており、当初は単純なデザインだったそうですが明治初年に仏師・徳太郎が改良を施し、現在のような豪華絢爛なだるまになりました。1985(昭和60)年9月3日には宮城県の伝統工芸品の指定を受けています。主な素材は和紙で、木型の上に和紙を幾重にも貼りつけ、それが乾いてから型を抜き取って作ります。このようにしてできたものを「張子」といいます。虚勢をはる人のことを「張子の虎」などといいますが、これは張子の中身が空洞になっていることから転じて生まれた言葉です(なお、「張子の虎」の実物は常設展示室の商品部門に展示してありますので、あわせてご覧ください)。

松川だるまの大きな特徴は、顔の下にある飾り模様です。この部分は、平面ではなく立体的な張子になっています。写真のだるまにはえびす様が描かれていますが、この他に「宝船」「鯉の滝のぼり」「一富士二鷹三茄子」など、縁起物ならではのめでたい図柄が描かれることが多いようです。

ところで、だるまに黒目を入れる習慣はどこから生まれたのでしょうか? だるま人形が誕生した当初は左右とも黒目が入っていたようですが、眼のないだるまに黒目を入れるきっかけになったのは疱瘡でした。江戸時代に疱瘡が大流行すると、「赤い色には、魔除けの力・病気を治す力がある」「疱瘡は赤い色を忌み嫌う」と信じられていたことから、赤いだるまが買ひ求められるようになるのですが、「疱瘡にかかると眼がつぶれる」と言われていたため、だるまの眼の描き方が良くないと売れませんでした。そこで、売り手は眼のないだるまを用意し、客の求めに応じてその場で眼を描いたり、あるいは客に描き入れさせたりしました。このことから目無しのだるまが作られるようになったのです。この疱瘡除けのだるまは、種痘が普及すると次第に姿を消していきませんが、願いをかなえるためにだるまに黒目を入れるという習慣は残り、現在にいたっています。また、目を入れるということには、「両目開眼でおめでたい、願いがかなった」という意味があり、「目玉を墨で黒くする」というのは「だるまさんが人に代わって苦労してくれる」ことだと言われています。

(織田 潤)

博物館は、施設だけでなくスタッフもフレッシュな顔ぶれとなりました。新しい博物館をいっそう充実させるため、一同やる気に満ち溢れています。どうぞよろしくお願い致します。



館長 小疇 尚 (こあぜ たかし)



このたび、新装成った明治大学博物館の館長を務めることになりました。専門は自然地理学で、おもに山地や寒冷地域の自然景観を研究しています。普段の研究対象が、博物館に展示されているようなモノではなく、実際の自然のアリサマですので、あるいは怪訝に思われるかもしれませんが、自然史博物館や科学博物館、国立公園のビジターセンターなどで目にする分野のひとつといえば、少しはご理解いただけるでしょうか。

さて、新博物館はアカデミーコモンを機に、長い間親しまれ高い評価を得てきた商品、刑事、考古学の旧3博物館を統合し、さらに大学史の展示室とミュージアムショップを加えて、大学博物館として再出発したものです。私立大学随一と言ってよい立派な施設で、大学の教育・研究はもとより、生涯教育の社会的要請に十分応えることができるものと自負しています。

この博物館が明大の新しい顔のひとつとして、多くの皆さんに愛され、利用されることを願って、館員一同張り切って仕事に取り組んでいます。利用にあたってお気づきの点や要望などありましたら、お聞かせいただければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

事務長 伊能 秀明 (いよく ひであき)

明治大学博物館は、私学では初のユニバーシティ・ミュージアムとして生涯教育棟アカデミーコモンで活動を始めました。博物館(ミュージアム)のルーツは、紀元前300年ごろエジプトのアレクサンドリア宮殿で女神ミューズ(Muses, ムーサイ)に捧げるために設けた教育研究施設ムーセイオンとされています。明治大学博物館は、尽きない「知の泉」が好奇心を刺激するとともに、どなたでも気軽に利用できる駿河台の「知の玄関」です。生涯学習への貢献、豊かな情報の集積と発信、建学の理想の高揚をモットーとして博物館事業の推進に取り組んでまいります。

皆様の絶大なるご支援をたまわれば幸いです。



専任職員

- 外山 徹 (商品・刑事部門担当学芸員)
- 日比佳代子 (刑事部門担当学芸員)
- 島田和尙 (考古部門担当学芸員)
- 忽那敬三 (考古部門担当学芸員)
- 高橋あけみ (庶務担当)

嘱託職員

- 織田 潤 (商品部門)・高野弘之 (刑事部門)
- 小林山佳 (考古部門)・飯田茂雄 (考古部門)
- 武田友子 (庶務)・吉田賢治 (庶務)
- 佐藤剛大 (庶務)

ミュージアム・ショップへ行ってみよう!

ミュージアム・ショップ“エムツー”開店からはや2ヶ月...

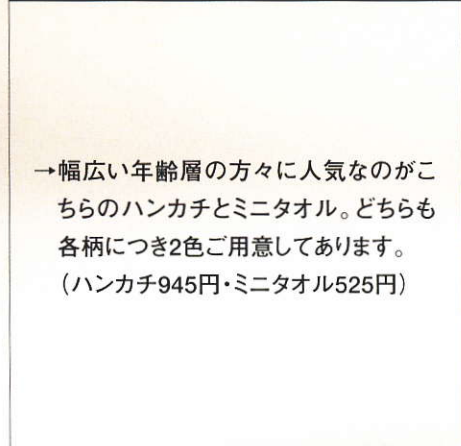
ショップには身近でお使いいただけるオリジナルグッズを多数用意してあります。

今回はその中でも売れ筋の人気商品を紹介します!!

ぜひ立ち寄ってご覧下さい。



←ショップで一番人気のクリアファイル。
勉強やデスクワークのお供に。(420円)



→幅広い年齢層の方々に人気なのが
こちらのハンカチとミニタオル。どちらも
各柄につき2色ご用意してあります。
(ハンカチ945円・ミニタオル525円)



↓夏場を迎えるこの時期にピッタリなのが、
こちらのTシャツ。ゆったりとして動きや
すいので、家着としても活躍しそうです。
(サイズ:フリーサイズ 1680円~)



←筆箋。ちょっとしたお手紙に。
おそろいの封筒もあります。(470円)



ただいま、特別企画第2弾実施中!

【ショップでポストカードを5枚お買い上げにつき
もう1枚プレゼント!!】

■ 期間：2004年6月19日~7月18日 ■

来た・見た・聞いた 明治大学博物館

メディア掲載一覧

資料・貸出掲載等

- ▶江戸町方同心 捕物出役長十手他計16点 井出 正信(江戸の十手コレクション Part2) 里文出版
- ▶高札「切支丹禁制」・鑑札「株仲間札」・城州伏見ニ於テ戦争之図『新編ビジュアル日本史』東京法令出版
- ▶享保15年8月撰州河州泉州八郡、村々役高并役引高帳 大阪の部落史委員会「大阪の部落史」第一巻(史料編 考古・古代・中世・近世1)
- ▶地方測量之図『小六エプリスタディ9月号』増進会出版
- ▶地方測量之図『社会科資料集6年』東京書籍
- ▶宝暦8年9月相州津久井県長竹村差出帳(津久井郡長竹村本多家文書)・文政11年2月村差出明細帳(津久井郡鳥屋村天野家文書)『津久井町史 資料編近世1』津久井町
- ▶ハンドアックス(群馬県岩宿遺跡)・ナイフ形石器(埼玉県砂川遺跡)・ナイフ形石器(埼玉県砂川遺跡)・石鏃(高知県不動ヶ谷遺跡)・石錘(岩手県雨滝遺跡)『新編ビジュアル日本史』東京法令出版
- ▶縄文式深鉢形土器(栃木県篠山貝塚)『ニューマイトイ問題集』学習研究社
- ▶発掘調査風景(群馬県岩宿遺跡)・刃部磨製石斧(群馬県岩宿遺跡)『河南町史 通史編』河南町
- ▶土偶(青森県亀ヶ岡遺跡)『予習シリーズ 社会5年下』(資料集) 四谷大塚出版
- ▶細石刃(北海道置戸安住遺跡)『社会科テスト6年生』
- ▶顔壺(栃木県出流原遺跡)『栃木県 地域の歴史を調べよう』 浜島書店

資料放映等

- ▶引廻しの図(『徳川幕府刑事図譜』)
日本テレビ「午後は〇〇おもいっきりテレビ」2004年4月22日
- ▶鎖鎌分銅付他計10点
スカイパーフェクTV ソニーSo-netチャンネル749短編映画特集番組「ホメマツリ」2004年5月7日
- ▶御様之図(『徳川幕府刑事図譜』)
テレビ東京「開運!なんでも鑑定団」2004年4月27日
- ▶捕縛の図(某藩重役の捕縛)・磔刑の図(『徳川幕府刑事図譜』)
テレビ東京「所さん&おすぎの偉大なるトホホ人物伝」2004年6月4日
- ▶捕縛の図(凶悪犯のはしご捕り)(『徳川幕府刑事図譜』)
朝日放送「わいどABC」2004年5月27日
- ▶貝層断面(神奈川県夏島貝塚)・合掌形石室(長野県大室古墳群)
放送大学「考古学と歴史」2004年5月~2008年3月



土偶(青森県亀ヶ岡遺跡)

団体見学の記録 2004年4月~6月

- 【一般】 明珠会40名・かながわ考古学同好会20名・望年会29名・明治大学考古学博物館友の会石器文化研究会9名・東西文化史研究会7名・日本セカンドライフ協会32名・ロシアハバロフスク郷土博物館考古学博物館7名・明治大学附属明治高校1年PTA10名・大田区立郷土博物館友の会15名
- 【中学校】 新潟県見附市立南中学校4名・山形県河北町立河北中学校11名・明治大学附属中野八王子中学校5名・山形県中山町立中山中学校5名・岡山県倉敷市立東陽中学校6名・東京都青山学院中等部15名・愛知県豊明市立沓掛中学校4名・岐阜県高山市立日枝中学校5名・愛知県藤岡町立藤岡中学校3名・練馬区立関中学校21名・渋谷区立鉢山中学校24名
- 【高等学校】 東京都帝京高等学校10名・十文字学園高等学校84名
- 【大学】 明治大学文学部日本史専攻新入生ガイダンス69名・慶應義塾大学民俗学考古学研究室17名・放送大学千葉学習センター仁藤古代史ゼミ6名・明治大学経営学部薩摩ゼミナール3年生11名・創価大学博物館見学実習27名・明治大学政治経済学部須藤ゼミナール12名
- 【その他】 学習塾栄光ゼミナール(取材)6名

エムツーグッズ
お買い上げありがとうございます。

茨城県父母会

博物館 友の会から

“明治大学博物館と友の会”

明治大学考古学博物館友の会が設立してから15年を経過しました。これから更に組織を強化して充実した貢献をすべき時に“アカデミー・コモン”が完成し、館内に三博物館が統合して新たに明治大学博物館としてスタートすることになりました。一方、友の会では考古学中心で動いておりましたので、変化した体制に沿って行く必要が生じました。そのため、名称を変えて“明治大学博物館友の会”として正式に発足する承認を5月8日の総会で得ました。これによって今までの考古部門だけでなく、刑事・商品部門も更に充実した方向で発展するよう協力し合って行くことになりました。

今まで考古部門は展示品の解説を実施してきましたが、これからは刑事・商品部門についても応援することが出来るようになればと考えています。これらの課題は、会員の積極的な参加がなければ実現することが不可能ですので、みなさんの奮起をお願いいたします。さらに友の会では広報活動として“友の会会報”を年4回(A5判)会員に配布して報告をしていますが、これからは博物館の催事や展示品の中から特徴あるもの、またミュージアム・ショップで販売しているオリジナルの商品などについても積極的に紹介していく予定です。また、新博物館には事務室に隣接して開架式の図書室が設置されており、考古部門をはじめ刑事・商品関連の参考書が準備されています。この図書室の管理は友の会の図書委員が協力して、利用しやすい環境づくりに一役買っています。図書室はまた一般の方も利用できるのです、ぜひお立ち寄りください。

最後に友の会に対するご希望、ご意見などがあればお手紙にてお知らせください。勝手なお願いにて恐縮ですが、よろしく願います。

(副会長・会報担当 森下 八郎)

【博物館友の会 連絡先】

〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1
明治大学博物館 友の会宛

博物館案内

【開館情報】

開館時間 10:00～16:30 (入館16:00まで)

休館日 8月の土・日曜
夏期休業日(8/10～8/16)
冬季休業日(12/26～1/7)
創立記念祝日(11/1)

※開館時間・休館日には変更の場合があります。

観覧料 常設展無料
特別展は有料の場合があります。

【図書室ご利用案内】

開室時間 月・金 10:00～18:30
(8,9,2,3月は10:00～16:30)
火～木 10:00～16:30
土 10:00～12:30

閉室日 日曜・祝日・大学が定める休日

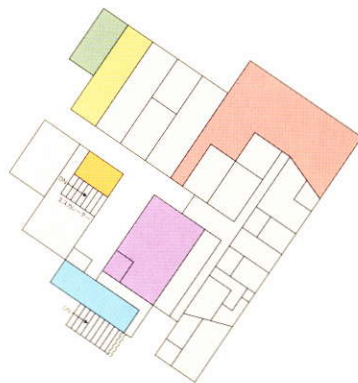
※図書室はどなたでもご利用いただけます。

※蔵書は原則閲覧・コピーのみとなりますのでご了承ください。



■交通機関

JR御茶ノ水駅(中央線)から徒歩5分
地下鉄御茶ノ水駅(丸の内線)から徒歩8分
地下鉄新御茶ノ水駅(千代田線)から徒歩8分
地下鉄神保町駅(都営新宿線・半蔵門線)から徒歩10分



施設案内 (B1)

■図書室
■体験学習室
■博物館教室
■ミュージアム・ショップ
■特別展示室
■大学史展示室